

荒川豊蔵 美濃焼の陶芸家。志野・織部など桃山時代の名陶が、瀬戸でなく美濃で焼かれたこと立証、古志野の再現に努めた。

あらかわとよぞう

日清戦争始・1894 =

岐阜県土岐郡多治見町で、農業荒川梅次郎、なべの長男に生まれる。母方は、多治見で、陶祖加藤と左衛門景一の直系の製陶業を営み、美濃焼の陶工の血筋を受け継いでいた。

日比谷公園・1903 = **9歳** :

日露戦争終・1905 = 11歳 :

満鉄発足・1906 = 12歳 :

韓国反日暴動1907 = 13歳 :

多治見尋常高等小学校高等科二年を修業し、神戸の陶磁器貿易商能勢商店の店員になる。多治見に戻り、陶磁器貿易商木塚商店に就職。

伊藤博文暗殺1909 = 15歳 :

大逆事件判決1911 = 17歳 :

明治天皇没・1912 = **18歳** :

大正政変・1913 = 19歳 :

21ヶ条要求・1915 = 21歳 :

ハルビン条約・1919 = 25歳 :

木塚商店を退職。京都の塾へ入学。夜鳴きうどんなどを売って学資を稼ぐ。父の弟虎次郎の次女志づ(14歳)と結婚。

神戸市湊川付近に住んで、親戚のもとで、陶磁器の販売や行商を手伝う。

長男武夫が誕生。

以前働いた多治見の木塚商店が名古屋で愛岐商会として再出発したの聞き、名古屋に移住し、入社。

名古屋の教育者鈴木勲太郎と出会い、彼の研究による特殊絵の具で手描きの上絵付き高級コーヒー茶碗を制作。京都の錦光山宗兵衛に持ち込んだところ、一ダース十八円で買ってもらい、さらなる制作を望まれ、独立して上絵磁器制作の事業を起こすことを決意。この時、同店の顧問の宮永東山に紹介される。

大暴落・1920 = 26歳 :

原敬首相暗殺1921 = **27歳** :

水平社結成・1922 = 28歳 :

長女利子が誕生。

上絵磁器の事業に失敗、心機一転、子供のころから得意であった絵描きになろうと、上京するも断念のやむなきに至ったため、宮永東山に相談の手紙を出すと、すぐ来いと返事、上洛するや、東山窯の工場長を任せ、旧大名家や名だたる大家の売り立てで、一流の焼き物を見る機会を得る。

治安維持法・1925 = 31歳 :

焼き物の勉強に身を入れ始め、建仁寺などで、毎月開かれる古陶磁研究会に出席、後に親友となる小山富士夫と出会い、叔父清右衛門の案内で、大平の窯跡を発掘、帰途、山道で、青織部の陶片を拾うなどの間、食器の研究で**東山窯を訪れた北大路魯山人と意気投合、彼が一年ほど止宿する間、親交を深める。**

円本時代始・1926 = 32歳 :

金融恐慌・1927 = 33歳 :

共産党事件・1928 = 34歳 :

世界恐慌・1929 = 35歳 :

海軍軍縮条約1930 = **36歳** :

次男達が誕生。

鎌倉に星岡窯を築いた魯山人から招かれ、一家で、鎌倉山崎に移住。魯山人が収集した膨大な古陶磁を手にとって研究し、星岡窯での作陶に活かした。

一ヵ月間、魯山人らと共に南朝鮮の古窯跡を発掘調査。

最も初期の作品は、この年の「染付馬の水指」で、絵描きの才を如何なく発揮した傑作である。

魯山人が名古屋松坂屋で開催した「星岡窯主新作展」に、ともに来訪した際、*古美術商から、見せてもらった志野菊絵茶碗の高台内側に付着した赤い道具土から、古志野は瀬戸で焼かれたとする通説に疑問、すぐに、多治見に行き、以前織部の陶片を拾った大萱の半田洞窯跡を訪れて、志野の破片を発掘、志野が美濃で焼かれたことを確信。引き続き発掘調査して、志野ほか桃山茶陶の名品が、瀬戸でなく、美濃で焼かれたことを実証、日本陶磁史上の大発見となった。名古屋で見た菊絵茶碗と相手の志野の陶片を発見し、その他の古窯跡も調査して美濃古窯の全貌を明らかにし、ついに、志野を自分の手で作ることを決意、

満州事変・1931 = 37歳 :

国際連盟脱退1933 = 39歳 :

帝人疑獄事件1934 = 40歳 :

芥川直木賞始1935 = 41歳 :

この発見を、魯山人が自らの成果にしようとしたこともあって決別、可見市久々利の大萱古窯跡近くに穴窯をつくる。意識を失って倒れるまで三晩四日かけて焚き続けたが温度が上がらず、失敗に終わる。

40m北に、新たに窯を築き、古窯跡から出土する陶片を頼りに、志野、瀬戸黒、黄瀬戸を試行錯誤で制作、

ようやく満足するものができ、志野のぐい呑みと瀬戸黒の茶碗を持って、なお芸術家として認める魯山人を訪ね、称賛されて、鎌倉に戻るよう促されるも固辞、以後、大萱窯で、志野、瀬戸黒、黄瀬戸を作陶、

日中戦争始・1937 = 43歳 :

第二次大戦始1939 = **45歳** :

日米開戦・1941 = 47歳 :

敗戦・1945 = 51歳 :

この年から3年、古九谷写の傑作。この間、古志野が美濃で焼かれたことの発見者の評価も確立、

ようやく自信を持ち始め、大阪梅田の阪急百貨店で、初の個展「荒川豊蔵作陶展」を開く。

岐阜の丸物百貨店で、郷土作家による「五風会展」が開かれ、出品。会場で終戦の放送を聞く。備前の金重陶陽・素山兄弟が、大萱を訪訪。

新憲法公布・1946 = 52歳 :

設立された「日本農村工芸振興会」陶磁器部門の指導員となる。多治見にある永保寺所有の山を借り受け、大萱窯とは異なる連房式登り窯の水月窯を作り、染付、色絵、粉引や、生活のため日用食器の量産を行う。

樞東裁判決・1948 = **54歳** :

独立回復・1951 = 57歳 :

備前に遊び、金重陶陽の陶房で作陶。この年の新聞記事で、岐阜県陶磁工教組連専務理事が、荒川豊蔵について、「モンベ姿は見るが、洋服着たのは見たことない。無愛想で口重だが、陶磁器の話になると別人、よくも研究したものと感心する」と語っている。

文化財保護委員会より、志野の工芸技術が無形文化財に認定される。

文化財保護委員会より、瀬戸黒の工芸技術が無形文化財に認定される。

自衛隊発足・1954 = 60歳 :

55年体制始・1955 = 61歳 :

***文化財保護委員会の重要無形文化財技術指定制度第一次指定で、志野と瀬戸黒の重要無形文化財技術保持者、いわゆる「人間国宝」に指定される。日本工芸会の結成に参加し、東京日本橋の三越で開催した戦後初の個展「荒川豊蔵作陶展」は大成功となり、以後、ようやく恵まれた人生になり、後進の育成にも努め始め、**

国連加盟・1956 = 62歳 :

なべ底不況・1957 = **63歳** :

安保闘争・1960 = 66歳 :

記録映画「志野」がつくられる。

名古屋松坂屋で「荒川豊蔵陶芸展」、以後数年、連年のように、主に名古屋、東京で個展。

光悦筆、宗達鶴下絵の「三十六歌仙和歌巻」を発見し入手、日本美術史上、戦後最大の発見と言われ、重要文化財指定となり、文化庁の所蔵になる。

タイタイ病始・1961 = 67歳 :

皇居吹上御苑用の志野タイル二千余枚を焼き上げ納入する。妻しづに、それまでの苦労に報いるべく、「志野菊絵茶碗・銘随縁」を贈るとともに、以後数年、志野焼の傑作が続き、

チェコのプラハで開かれた国際陶芸連盟主催の「国際現代陶芸展」で、志野の花入が金賞となる。

東京初光ヶ1964 = 70歳 :

日本橋三越で「大萱築窯三十年記念展」。

いざなぎ景気1966 = **72歳** :

美濃部都知事1967 = 73歳 :

霞ヶ関ビル・1968 = 74歳 :

ドルショック・1971 = 77歳 :

日中国交回復1972 = 78歳 :

石油ショック1973 = 79歳 :

クアアール事件1975 = **81歳** :

田中角栄逮捕1976 = 82歳 :

JALハイジャック・1977 = 83歳 :

成田衝突・1978 = 84歳 :

貿易摩擦始・1980 = 86歳 :

映画「志野 - 荒川豊蔵」・1984 = **90歳** :

ジャコウ機墜落1985 = 91歳 :

朝日新聞社より自著「志野」を出版。

妻志づ死去。

石川県の山中町などで漆器制作。文化勲章受章と同時に文化功労者、多治見市の名誉市民となる。

宮中新年歌会始めに招かる。この前後、再び、絵描きの才を示す染付の傑作多数。

名古屋の丸栄で「大萱築窯四十周年・荒川豊蔵展」を開催。

唐津の西岡小十窯、有田の今泉今右衛門窯で作陶・絵付け、以後も、各地で作陶を続け、

岐阜県博物館の開館記念「郷土の三人展」に出品。朝日新聞社より「荒川豊蔵自選作品集」を刊行。

大阪高島屋で「五窯歴遊・荒川豊蔵展」を開催。日本経済新聞社より「縁に随う」出版。

萩、唐津、備前の各窯で作陶。東京高島屋で個展を最後に、

映画「志野 - 荒川豊蔵」が作られ、

可見市の大萱窯の地に豊蔵資料館(現・荒川豊蔵資料館)が開館されてまもなく、

没した。

講談社「日本のやきもの 現代の巨匠6 荒川豊蔵」(九原英樹編著)、Wikipedia、